

G-1 女紅場の研究(1) 明治初期における民衆の教育要求と女子教育機関

別府大短大 坂本智恵子

目的 この研究は、日本近代女子教育史、家庭科教育史研究の一環として、その成立期における女紅場の教育の実態と、教育史的意義を明らかにすることを目的とする。

方法 従来の官方資料に重実をおいた制度史的研究がふれ得なかった、民衆の生活実態やその要求と、女子教育機関の成立と展開過程の関連を明らかにするために、地方教育史的研究の諸資料や新聞雑誌等の資料を活用して、生活史的研究の方法をとり入れたい。

結果 明治初年に設けられた女紅場は、「女子特有の手技」を中心にした教育機関であった。地域により、その設立の事情、生徒の年齢構成、出身階層、教科課程、教員組織、授業料、学校運営費等において、さまざまものがあつた。京都のように比較的上層の家庭の子女を教育する機関もあつたし、一般庶民の子女や芸娼妓を收容したものもあつた。しかしそれらは何れも、「文明開化」に対応して、女子教育を行おうとするものであつた。明治政府は、学制により「学校」を導入しようとしたが、それは民衆の教育に対する要求を十分に満たし得るものではなかつた。特に女子の場合はそうであつた。学校にくらべて、女紅場は、民衆の教育に対する要求をある程度満たし得るものであつた。だからそれは普及し始めたが、学制・教育令等による明治政府の学校普及政策は、女紅場の発展をおしとどめる作用をはたした。今回の報告は、女紅場の実態を明らかにすることにより、民衆の教育要求を反映した女子教育機関の萌芽的形態を究明することに重実をおいたものである。